

支援学校との交流

工芸高校では30年以上前から大阪府立堺支援学校との交流授業を続け、支援学校の児童・生徒の現状を踏まえた教具（※1）の制作にあたってきました。これをもとに平成28・29・30年度の3年間「支援学校に通う児童・生徒のための教具制作から学ぶデザインワーク」～支援学校との交流授業を通してデザインの大切さを学ぶ～というタイトルで大阪市教育委員会のがんばる先生支援事業の選定を受けることができました。

教具の依頼は多種多様で、材料の選定や技法などは既存の形にとらわれずに、生徒たちがブレインストーミング（ある問題やテーマに対し自由に意見を述べることで、多彩なアイデアを得るための会議法）を使ってお互いの知識や技術を補いあって作り上げます。この教具制作を通して協働授業の楽しさやデザインワークの大切さを知ることができました。

（※1 ここにあげる「教具」とは支援学校に通う児童・生徒の学習指導効果をあげるために一人一人の実態に合わせた自立支援のための教材をさします。）

お誕生日飾りキット



数字や言葉をフェルトで作ってマグネットをつけて黒板に貼り付けることができます。

だいしゃのはなちゃん



支援学校の生徒達が台車に物をのせて運べるようになっています。持ち手は高さを変えられるようになっています。

スライディングブロック



様々なイラストが描かれたブロックをつなぎ合わせて1つの図形にして遊べる教具です。10種類のイラストの組み合わせができる様になっています。

くつばこ



靴箱には様々なイラストが描かれていて、自分の靴をどこに置いたかわかりやすくなるようにしました。棚も色々な靴の高さに合わせるように工夫されています。

ダンボールハウス



収納できるダンボールハウスです。支援学校の生徒達が自分たちで組み立てることができるように工夫されています。

エプロンシアター



「ぞうくんのあめふりさんぽ」のエプロンシアターをつくりました。フェルトで作ったぞうさん達にはマグネットが入っていて、ホワイトボードにくっきます。

無二の音もだち



アルパカの背中がピンボールになっていて、穴にボールが落ちると内蔵されている木琴の音がなります。ボールの落ちる位置によって毎回音が変わります。

Boccia（ボッチャ）



パラリンピックの正式種目でもあるBocciaのランプスを制作しました。ボールを滑らかに落とすために高さや傾斜を変えられるように設計しました。

ハニカムクロック



時計の文字盤が取り外すことができ、数の概念や色で数字を学んでもらう教具です。ハニカムの形に作られたピースは取り外すと積み木のように重ねていくこともできます。

くす玉



くす玉には「おめでとう」や「いってらっしゃい」、「はじめます」など様々な言葉が入るようになっていて、催し物をやる時のはじまりを華々しくすることができます。